

国立がん研究センターがん対策情報センター
若尾 文彦

がん対策推進基本計画と中間評価指標の関係

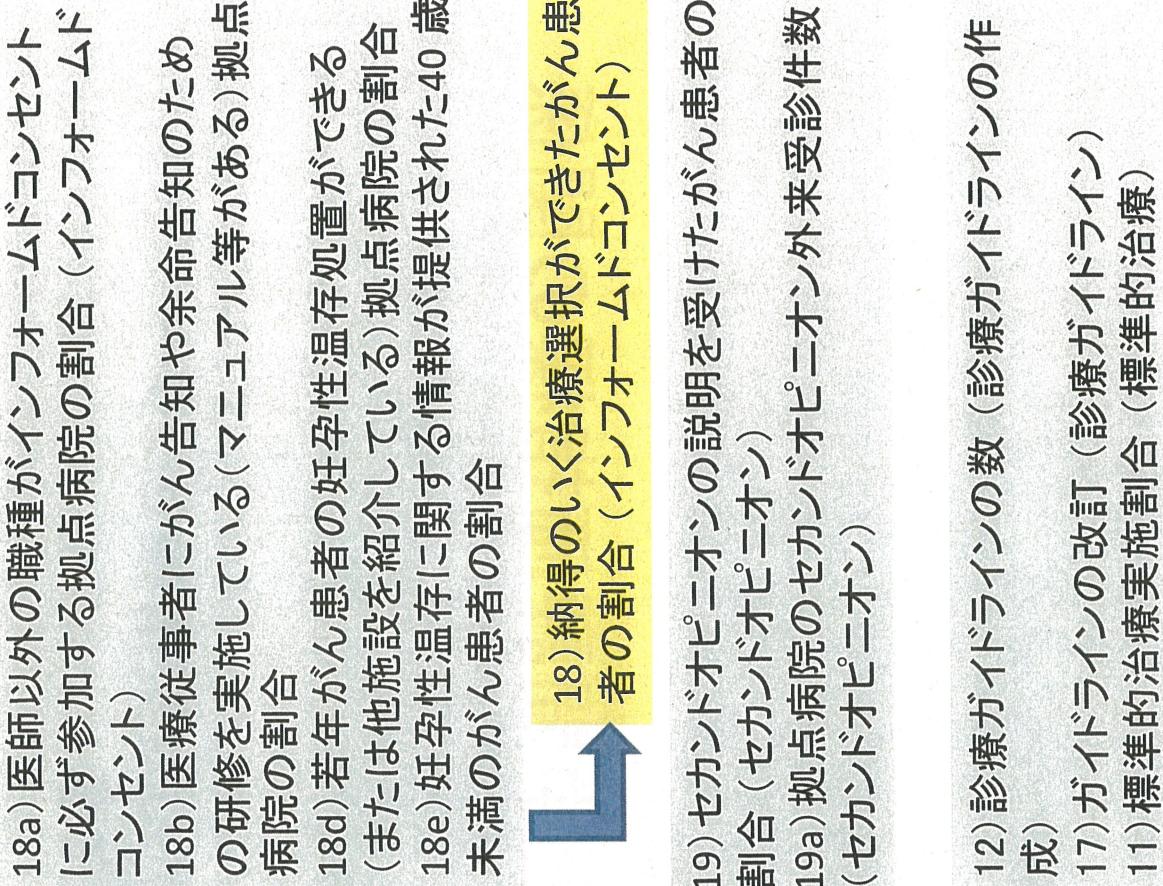
1. がん医療

- (1) 放射線療法、化学療法、手術療法の異なる充実とチーム医療の推進
 - チーム医療とがん医療全般に関すること①

- ・ インフォームド・コンセントの体制を整備し、患者の意思を尊重するがん医療

- ・ 分かりやすい教材を活用し、患者が主的に治療内容などを確認できる環境を整備

- ・ セカンドオピニオンを受けられ、患者自らが治療法を選択できる体制を整備
- ・ セカンドオピニオンの活用を促進するための患者やその家族への普及啓発を推進



1. がん医療

(1) 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進
○チーム医療とがん医療全般に関すること②

- 患者にとつて分かりやすい情報提供
- がんに対する的確な診断と治療を行う診療体制を整備
- 医療従事者間の連携と補完を重視した多職種でのチーム医療を推進
- 口腔ケア、栄養管理やリハビリテーションの推進など、職種間連携を推進
- がん看護体制の更なる強化
- がん医療の質と安全の確保のための取組を一層推進
- 各診療科の横つながりを重視した診療体制の構築
- 地域の医療機関の連携と役割分担を図り、高度な医療について地域性に配慮した計画的な集約化を図る

13) 患者用診療ガイドラインの数（患者用診療ガイドラインの作成）

- 24a) 横断的な医療チームによるがん治療サポート体制がある拠点病院の割合（チーム医療）
- 27) 口腔ケアプロトコール整備されている拠点病院の割合（がん患者の口腔ケア）
- 26f) リハビリテーション科専門医が配置されている拠点病院の割合（リハビリテーション）
- 26a) がん化学療法看護認定看護師が配置されている拠点病院の割合（がんの認定看護師）
- 11c) がん治療で生じた安全問題を検討している拠点病院の割合（医療安全管理）
- 25a) がん診療を統括する診療部が設置されている拠点病院の割合（腫瘍センター）
- 29) 拠点病院から地域医療機関に紹介された患者で別の医療機関に通院した者の割合（拠点病院地域連携）

1. がん医療

- (1) 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進
- 放射線療法の推進

- 放射線療法の質を確保し、地域格差を是正し均一化と高度技術の集約化
- 専門性の高い人材を適正に配置し、多職種による放射線治療チームを設置
- 先進的な放射線治療装置の研究開発を推進し、国内での計画的かつ適正な配置を検討

3) 直線加速器による定位放射線治療加算をとっている
拠点病院（中間報告：定位放射線治療）
5) IMRT 加算をとっている拠点病院の割合（中間報告：
IMRT の実施状況）

26d) 放射線治療専門医の配置されている拠点病院
の割合（質の高い安全な放射線療法）
1) 外来放射線照射診療料をとっている拠点病院の
割合（放射線療法の体制整備）
26c) 放射線治療部門に専任看護師が配置されてい
る拠点病院の割合（質の高い安全な放射線療法）



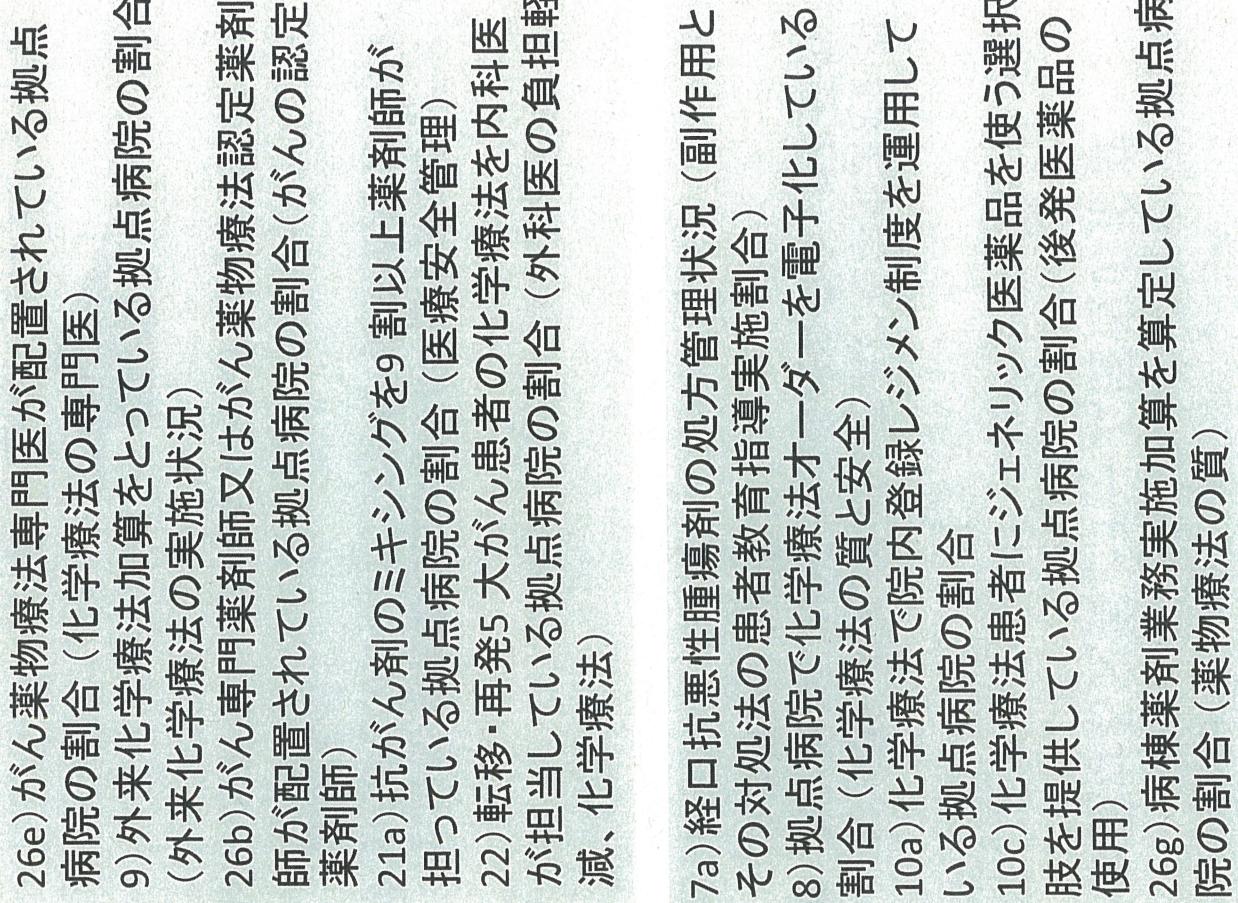
15a) 拠点病院における5年生存率
（がんののがん）患者の5年生存率

1. がん医療

(1) 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進

○化学療法の推進

- 専門性の高い人材を適正に配置するとともに、多職種で構成された化学療法チームを設置
- 患者の副作用・合併症などに対応できる診療体制を通院治療を含めて整備



1. がん医療

- (1) 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進
 - 手術療法の推進

- 手術療法の成績の更なる向上を目指し、手術療法の標準化に向けた評価法の確立や教育システムの整備
- 地域性に配慮した一定の集約化を図った手術療法の実施体制を検討
- 質の高い周術期管理体制、病理診断を確実に実施できる体制を整備



22) 転移・再発5大がん患者の化学療法を内科医が担当している拠点病院の割合（外科医の負担軽減、化学療法）



11b) 拠点病院における手術・化学療法クリティカルパスのバリアンス分析*実施状況（クリティカルパス）



14) 拠点病院における5大がん患者の術後30日以内の死亡率（術死率）

1. がん医療

(1) 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進

- 患者とその家族が納得して治療を受けられる環境を整備し、3年以内に全ての拠点病院にチーム医療の体制を整備することを目標とする。

- 診療ガイドラインの整備など、手術療法、放射線療法、化学療法の更なる質の向上を図るとともに、地域での各種がん治療に関する医療連携を推進することにより、医療が安全な質の高いがん医療の提供を目標とする。

9) 外来化学療法加算をとつている拠点病院の割合 (外来化学療法の実施状況)

- 21a) 抗がん剤のミキシングを9割以上薬剤師が担つている拠点病院の割合(医療安全管理)
- 22) 転移・再発5大がん患者の化学療法を内科医が担当している拠点病院の割合(外科医の負担軽減、化学療法)



15a) 拠点病院における5年生存率

- 問1. がんの医療が進歩していると感じている患者の割合
- 問2. 自分の生活に見通しが持てていると感じている患者の割合。
- 問3. 自分に合った治療や支援を受けていると感じている患者の割合。
- 問4. 治療や支援を受けた時にあたって、尊重されていると感じている患者の割合。
- 問5. 1年間に治療や支援が途切れてしまい、困った経験がある患者の割合。
- 問6. 自分が受けている自分の治療や支援について納得している患者の割合。

1. がん医療

(2) がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成

- がん関連学会と大学などが協働して専門医や専門医療従事者の育成を推進
- がん診療に関する教育を専門的かつ臓器別にとらわれない教育体制を整備
- 医療従事者の育成に関わる様々な研修を整理し、より効率的な研修体制を検討
- 国、学会、拠点病院を中心とした医療機関、関係団体、国立がん研究センター等は、研修の質の維持向上に努め、地域のがん医療を担う医療従事者の育成に取り組む。



- 25) 臓器横断的ながん臨床教育制度がある都道府県がん診療連携拠点病院の割合(臓器横断的教育体制)
18b) 医療従事者にがん告知や余命告知のための研修を実施している(マニュアル等がある)拠点病院の割合

- 5年以内に、拠点病院をはじめとした医療機関の専門医配置の有無等、がん患者にとつて分かりやすく提示できる体制の整備を目標とする。
- 関連学会などの協働を促し、がん診療に携わる専門医のあり方を整理するとともに、地域のがん医療を担う専門の医療従事者の育成を推進し、がん医療の質の向上を目標とする。

1. がん医療

(4) 地域の医療・介護サービス提供体制の構築

- 拠点病院の方針について、各地域の医療提供体制を踏まえた上で検討
- 患者とその家族が希望する療養場所を選択でき、切れ目なく質の高い緩和ケアを含めた在宅医療・介護サービスを受けられる体制を実現
- 地域完結型の医療・介護サービスを提供できる体制の整備、各制度の適切な運用とそれに必要な人材育成

16) 拠点病院の5大がん患者の診断から治療開始までの日数

- 30a) 拠点病院で地域連携室等に専従・専任で配置されている人員数
- 31) 地域の医療施設のうち拠点病院が適切な連携を行つていると回答した施設の割合(拠点病院地域連携)
- 32) 拠点病院医師らと在宅療養担当医師らとの合同カンファレンス実施割合(在宅療養との連携)

- 34) 在宅療養中のがん患者で必要時医療従事者に連絡が取れる者の割合(がん患者の在宅医療)

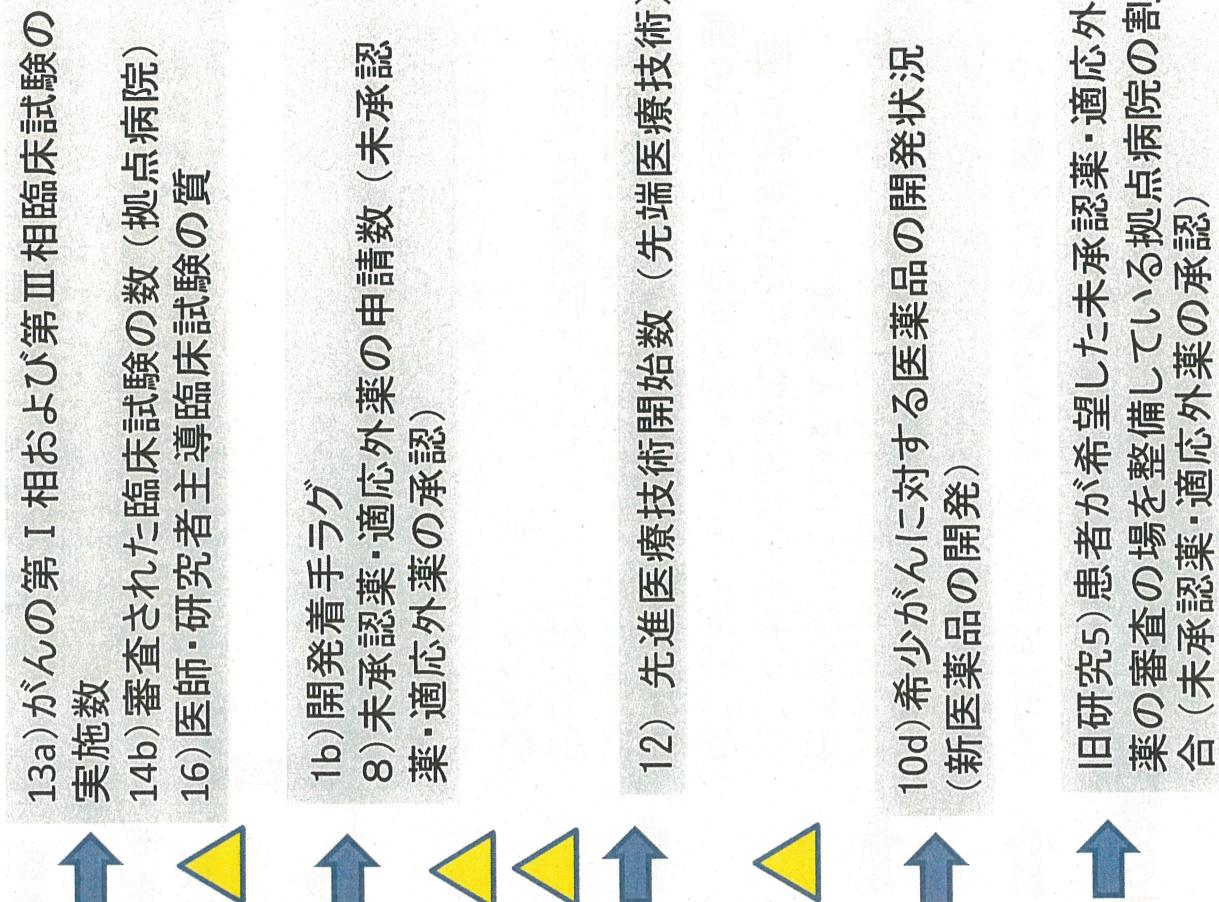
- 35) 介護保険を利用している40～64歳のがん患者の介護サービス満足度(がん患者の介護サービス)
- 36) 在宅療養中のがん患者の医療に対する満足度(がん患者の在宅医療)問8. 1年間に治療や支援が途切れてしまい、困った経験がある患者の割合。

- がん患者がその居住する地域にかかわらず等しく質の高いがん医療を受けられるよう、3年以内に拠点病院のあり方を検討し、5年内に検討結果を踏まえてその機能を更に充実させることを目標とする。
- がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養や生活を選択できるよう~~在宅医療・介護サービス~~提供体制の構築を目標とする。

1. がん医療

(5) 医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組

- 國際水準の臨床研究の実施や研究者主導治療の役割を担う臨床研究や研究者やCRC等の人材を育成していきながら、研究者やCRC等の人材を開発していく。
- PMDAと大学・ナショナルセンター等の機関で未承認薬を開拓するが、国内上場企業にて、関係性がある企業との連携を進めることで、未承認薬の開拓を進めます。また、米国に着目し、米国に進出する方薬も含めた検討を行っており、海外での要請に対する対応を進めるなど、米国に進出する方薬も含めた検討を行っており、海外での要請に対する対応を進めます。
- 治療整備に注力し、既存の治療法の改良や新規治療法の開発を進めています。また、欧州で承認された薬を日本で販売する手順も確立され、輸出業者としての役割を果たしています。
- 薬剤開発においては、多様な開発手法を駆使して、効率的な開発を目指しています。また、医療機器開発においては、AI技術を活用して診断支援システムを開発しています。
- 研究開発においては、基礎研究から臨床試験まで、総合的な研究体制を構築しています。また、患者登録システムを導入して、データ収集と分析を効率化しています。
- プロジェクトマネジメントにおいては、複数のプロジェクトを統合して、スケジュール管理と資源配分を行っています。また、リスクマネジメントを実践して、予期せぬ問題に対応する体制を構築しています。
- パートナーシップにおいては、国内外の企業や研究機関との協力によって、開発の幅を広げています。また、政府や自治体との連携も強化されています。
- グローバル展開においては、日本市場のほか、米国や欧州、アジアなどの主要市場での販売を目指しています。また、新規市場への参入も検討されています。
- その他、医療機器開発では、AI技術による診断支援システムを開発しています。また、医療機器開発では、AI技術による診断支援システムを開発しています。
- さらに、医療機器開発では、AI技術による診断支援システムを開発しています。また、医療機器開発では、AI技術による診断支援システムを開発しています。



1. がん医療

(5) 医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組

- 医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた、臨床研究中核病院の整備、PMDAの充実、患者承認薬・適応外薬の治験の推進、先進医療の迅速かつ適切な実施等の取組を一層強化し、患者を含めた国民の視点に立って、提携を有効で安全な医薬品を迅速に提供するための取組を着実に実施することを目標とする。

1) ドラッグラグ・デバイスラグ (ドラッグラグ・デバイスラグ・早期承認)

1a) アンメットメディカル・ニーズ:
薬事法上新規の製造販売承認もしくは
適応拡大が認められたがん関連薬剤
の絶対数

問1. がんの医療が進歩していると感じている患者の割合

1. がん医療

(6) その他

〈希少がん〉

- 専門家による集学的医療の提供などによる適切な標準的治療の提供体制、情報の集約・発信・検討支援、研究開発等のあり方について、相談する信検討する

- 中間評価に向けて、希少がんについて検討する臨床研究体制の整備とともに個々の希少がんに見合った診療体制のあり方を検討

〈病理診断〉

- 若手病理診断医の育成をはじめ、細胞検査技師等の病理閲連業務を専門とする臨床検査技師の適正配置
- 病理診断システムや情報技術などの連携体制の構築などで、病理診断システィムや情報技術の導入、中央で検討を補助する新たな支援のあり方や病理診断などの連携体制の構築などで、病理診断の現状を調査し、がん診療の病理診断体制のあり方などをについて検討

〈リハビリテーション〉

- がん患者に対する質の高いリハビリテーションについて積極的に取り組む。
- 拠点病院などで、がんのリハビリテーションに関わる医療従事者に対して質の高い研修を実施し、その育成に取り組む。

- 37) 希少がん患者の診療日から治療開始までの待ち時間（治療待ち時間）
- 38) 希少がんガイドラインがある希少がんの割合（診療ガイドライン）

- 10d) 希少がんに対する医薬品の開発状況（新医薬品の開発）

- 41) 病理専門医が1名以上配置されている拠点病院の割合（病理診断医の不足）

- 41a) 拠点病院に入院中のがん患者でリハビリテーションを受けた患者の割合（リハビリテーション）

- 41d) 外来でがん患者にリンパ浮腫ケアを実施している拠点病院の割合

2. がんに関する相談支援と情報提供

- ・ 地方公共団体・拠点病院等の各レベルで、患者果的など患者とのコミュニケーションを実施する。
 - ・ 國・地の切業制点内共バツ国連携をとる者切とす経にがん研究者実験充実化進者さ國立修もに、希少がんややすく機能を担うPMDAは、関係機関と協力し副作用の情報収集・評価と患者への情報提供を行う。
 - ・ 地方公共団体・拠点病院等の各レベルで、患者果的など患者とのコミュニケーションを実施する。
 - ・ 國・地の切業制点内共バツ国連携をとる者切とす経にがん研究者実験充実化進者さ國立修もに、希少がんややすく機能を担うPMDAは、関係機関と協力し副作用の情報収集・評価と患者への情報提供を行う。

- 1) がん相談支援センターが設置されている2次医療圏の割合（相談支援センター）
- 6b) サポートグループや患者・家族対象の学習会等を実施している拠点病院の割合（拠点病院の患者会等への支援状況）

- 1a) がん相談支援センターに専従の相談員が配置されている拠点病院の割合（相談支援センターへの人材配置）

- 10b) 化学療法レジメンを公開している拠点病院の割合（がんの治療計画）

- 1c) 医療ソーシャルワーカーおよび看護師が配置されている拠点病院の相談支援センターの割合（臨床心理士・MSW）

- 4g) ピアソポーターによる相談支援を実施している拠点病院の割合

- 2) がん対策情報センターで情報提供している拠点病院の診療実績等の項目数（拠点病院の診療実績）
問10. がんに関して、正確な情報が提供されていると感じた患者の割合

- ・ 5年内に、拠点病院をはじめとした医療機関の専門医配置の有無等、がん患者にどうつぶかりやすく提示できる体制の整備を目標とする。

- 5) 拠点病院の初発がん患者のうち必要な治療等の情報が得られた者の割合（治療中に必要な情報）

- 6) 拠点病院の初発がん患者のうち受診施設から治療選択に必要な情報が得られた者の割合
- 4d) 拠点病院のがん相談支援センターの利用者満足度

6. がん研究

- 国内の新設施一一試の衛体響に情すみ研極る事境登の検査評政つ究の材つ理國の一をフ臨が公れ康価と個に粹がに對かしが学予予療開方若專す處を。國の革定実オ床ん衆る影のも人開組ん積すん環んへ防防のすを手門るしと行ふ。國の優れ医が構構推方究整防大衆護警備般公や主備更、ノ断ん者に對リサーチ・レジメント等)や研究にに研保護にに取組ん者に對成改滑な運用され医をてに究緑検、研のス、ン料を利す。端開ににれし立研射果、学究ラ、バ資研に對確防放果、学究ラ、バ行政に予し入模生の行政に実する患に臨する患者に對する充をイ構的の資負的効果的。最機事施しにの予し入模生の行政に実する患に臨する患者に對する充をイ構的の資負的効果的。端開ににれし立研射果、学究ラ、バ資研に對確防放果、学究ラ、バ行政に予し入模生の行政に実する患に臨する患者に對する充をイ構的の資負的効果的。端開ににれし立研射果、学究ラ、バ資研に對確防放果、学究ラ、バ行政に予し入模生の行政に実する患に臨する患者に對する充をイ構的の資負的効果的。

14e) バイオバンクの活動

13a)がんの第Ⅰ相および第Ⅲ相臨床試験の

14b) 審査された臨床試験の数（拠点病院）
14c) バイオバンクの活動実施数

16) 医師: 研究者主導臨床試験の質

7. 小児がん

- ・ 小児がん拠点病院を指定し、専門家による集学的医療の提供、患者とその家族に対する心理社会的な支援、適切な療育・教育環境の提供、小児がんに携わる医師等に対する研修の実施、ヤカンドオピニオンの体制整備、患者とその家族、医療従事者に対する相談支援等の体制を整備する。
 - ・ 患者が速やかに適切な治療が受けられるよう、地域の医療機関等との役割分担と連携を進めます。また、患者が、発育時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備する。
 - ・ 地域の中で患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんなどに対応できる長期フォローアップの体制とともに、小児がん経験者の自立に向けた心理社会的な支援についても検討する
 - ・ 小児がんに関する情報の集約・発信、診療実績などのデータベースの構築、コールセンター等による相談支援、全国の小児がん連連施設に対する診療、連携、臨床試験の支援等の機能を担う中核的な機関のあり方にについて検討し整備を開始する。

- 39a) 小児がん患者と家族のための宿泊施設を整備している施設の割合
- 40) 小児がん患者の初回治療集積割合（医療の集約化）
- 40b) 小児がん患者のうちキャンサーボードで検討された患者の割合



- 39) 院内学級制度がある施設の割合（小児がん患者の教育と自立）
- 40a) 小児がん患者への外来化学療法実施件数
- 40c) 小児がん患者の長期フォローアップ外来を開設している施設の割合



- 小児がん患者とその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備を目指し、5年以内に、小児がん拠点病院を整備し、小児がんの中核的な機関の整備を開始することを目標とする。

8. がんの教育・普及啓発

- ・ 健康教育全体の中で「がん」教育をどうのようにするべきか検討
- ・ 対象者ごとに指導内容・方法を工夫した「がん」教育の試行的取組や副読本の作成を進めていくとともに、国は民間団体等によって実施されている教育活動を支援する。
- ・ 国民への普及啓発について、国や地方公共団体は引き続き、検診や緩和ケアなど共団体による普及啓発活動を進めるとともに、民間団体によって実施されている普及啓発活動を支援する。
- ・ 患者とその家族に対しても、国や地方公共団体は引き続き、拠点病院等医療機関の相談支援・情報提供機能を強化するとともに、民間団体によつて実施されている相談支援・情報提供活動を支援する。

- 32b)がん患者・家族、市民へ講演会を実施した拠点病院の割合（治療への理解）
- 7)小中学校でのがん教育実施率（こどもの中学校でのがん教育）
- 11a)拠点病院のがん患者の臨床試験の認知度
- 12)小学6年生のうち「早期発見治療で治るがんがある」と回答した者の割合（がん検診）
- 13)学校でならったがんについて家庭で話したことがある小学6年生の割合（がんに対する意識の変化）

↑
↑

- 10e)拠点病院のがん患者のうち治療中に社会からのがんに対する偏見を感じた者の割合（偏見）

↑

- 子どもの対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育することを目指し、5年以内に、学校での教育のあり方を含め、健康教育全体の中で「がん」教育をどのようにするべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする

- 国民に対しては、がん予防や早期発見につながる行動の姿勢を促し、自分や身近な人ががんに罹患してもそれを正しく理解し、向かい合うため、がんの普及啓発活動をさらに進めることを目標とする。

9. がん患者の就労を含めた社会的な問題

- 職場でのがんの正しい知識の普及、事業者・がん患者やその家族・経験者に対する情報提供・相談支援体制のあり方等を検討し、検討結果に基づいた取組を実施
- 働くことができるよう、医療従事者、産業医、事業者保険等ともに配慮した職務の共有や連携の下、職業生活の両立を検討し、検討結果に基づいたづき試行的取組を実施
- がん患者も含めた患者の長期続きたつた上で、医療機関は、医療従事者にどう健康確保を図った上で、がん患者も含めた患者の軽減策についてには、引き続き定期的な業務負担を進める。
- 医療従事者が働きながら治療を受けられるように配慮するよう努める
- 事業者は、がん患者が働きながら治療や療養できる環境の整備、さらに家族ががんになってしまった場合でも働き続けられるような配慮に努める



14) がん休職後の復職率（復職）
15) がん治療のために退職した患者のうち
新規就労した者の割合

16) 治療にかかる費用のために治療変更・断念
した患者の割合（がん診療による経済負担）

19) 時短勤務、在宅勤務制度等がん治療と
就労の両立を支援している中小企業の割合
(企業による就労支援体制)
19a) 就労とがん治療を両立させるために勤
務先から支援が得られたがん患者の割合
(企業による就労支援体制)

- がん患者・経験者の就労に関するニーズや課題を3年以内に明らかにした上で、国、地方公共団体、関係者等が協力して、がんやがん患者・経験者に対する理解を進め、がん患者・経験者とその家族等の仕事と治療の両立を支援することを通じて、抱えている不安の軽減を図り、がんになつても安心して働き暮らせる社会の構築を目標とする。

問17. あなたは、家族に過度な負担をかけることなく、必要なサービスを利用できていると感じていますか。

問18. あなたは、病気があってもきちんと社会の一員として認められないと感じられていますか。

問19. あなたは、ご自身の病気と向き合えていると感じていますか。

全体目標

2 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上

- 問1. あなたはがんの医療が進歩していると感じていますか。
- 問2. あなたは、がんによる心の痛みを感じていますか。
- 問3. あなたは、がんらしい日常生活を送っていると感じていますか。
- 問4. あなたは自分らしさに見通しが持てていると感じていますか。
- 問5. あなたは自分自身に見通しが持てていると感じていますか。
- 問6. あなたはご自身を支援を受けていますか。
- 問7. あなたは治療や支援を受けるにあたって、あなたのことを尊重されていますか。
- 問8. この1年間にあなたは治療や支援が途切れてしまい、困った経験がありますか。
- 問9. あなたはご自身が受けている自分の治療や支援について納得していますか。
- 問10. あなたは、がんに関して、正確な情報が提供されていると感じていますか。
- 問11. がんに関する情報について、患者さんのつらさに配慮した情報提供がなされていますか。
- 問12. がんに関する情報について、患者さんが生き方を選べるようになりますか。
- 問13. あなたは、がんにして、必要な相談の場が準備されていると感じていますか。
- 問14. 経済的な負担のために治療を変更・断念したことがありますか。
- 問15. あなたはご家族の生活の質も保護されていると感じていますか。
- 問16. あなたは、ご家族に看護や介護の負担をかけていると感じていますか。
- 問17. あなたは、家族に過度な負担をかけますか。
- 問18. あなたは、あってもきちんと社会の一員として認められていますか。
- 問19. あなたは、ご自身の病気と向き合えていると感じていますか。

3 がんになつても安心して暮らせる社会の構築